

臨床口腔病理学	実習
---------	----

《担当者名》 特任教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 講師 / 佐藤 惇 j-sato@ 講師 / 吉田 光希 denty@
 助教 / 森川 哲郎 t-morikawa@
 非常勤講師 / 清水 重善 非常勤講師 / 青木 一太 非常勤講師 / 神野 由貴 非常勤講師 / 高橋 耕一
 非常勤講師 / 宇津宮 雅史 非常勤講師 / 中條 貴俊 非常勤講師 / 大西 綾 非常勤講師 / 高橋 周平

【概要】

病理学・口腔病理学の講義実習で習得した基本的な知識を基に、歯科臨床で遭遇する可能性のある顎・口腔領域特有の疾患について病理組織学的な理解を深めるために顕微鏡観察を行う。また、観察した病理組織像と各種臨床所見との関連性について考察する。

そのほか、口腔粘膜で行われる擦過細胞診の基本的な知識の習得をめざすとともに、各種の特殊染色や免疫組織化学染色の特徴、有用性についても学習する。

【学修目標】

- 顎口腔領域に発生する各種病変の病理組織学的特徴を理解する。
- 病理組織学的特徴と臨床所見との関連性を理解する。
- 細胞診の基本的事項を習得する。
- 歯原性疾患の特徴を歯牙発生と関連付けて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔領域の嚢胞 1) 顎骨部に発生する嚢胞 (1) 歯原性嚢胞 a) 含歯性嚢胞 b) 石灰化歯原性嚢胞(石灰化嚢胞性歯原性腫瘍) (2) その他の嚢胞 a) 術後性上顎嚢胞 b) 単純性骨嚢胞 (3) 口腔軟部組織の嚢胞 a) 鰓嚢胞 b) 甲状舌管嚢胞 c) 類皮・類表皮嚢胞	口腔領域に発生する種々の嚢胞を比較観察し、その特徴(部位、裏装上皮など)を学ぶ。また、その成り立ちなどについても考え説明できる。 「口腔病理アトラス」P.175-P.204 「EBMに基づいた口腔病理診断学」P.107-P.127 (F-2-4)-(3)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 清水 重善 青木 一太
2	口腔粘膜の病変 (1) 白板症 (2) 扁平上皮癌 (3) 口腔粘膜の細胞診 (擦過・パパニコロウ染色)	前癌病変の白板症及び上皮異形成などについて病理組織学的特徴を説明できる。 また、口腔粘膜の擦過細胞診について、その基本的な事項を標本観察を行うことで学習する。 「口腔病理アトラス」P.235-P.248 「EBMに基づいた口腔病理診断学」P.27-P.84 (F-2-4)-(3)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 神野 由貴 高橋 耕一
3	歯原性腫瘍 (1) 上皮性歯原性腫瘍 a) エナメル上皮腫(濾胞型) b) エナメル上皮腫(叢状型) c) エナメル上皮腫(混合型) d) エナメル上皮腫(顆粒細胞型) e) 腺腫様歯原性腫瘍 f) 歯原性角化嚢胞(角化嚢胞性歯原性腫瘍)	歯原性腫瘍のうち、上皮性歯原性腫瘍について顕微鏡観察を行い、それぞれの組織学的特徴及び共通所見などを説明できる。 「口腔病理アトラス」P.205-P.234 「EBMに基づいた口腔病理診断学」P.129-P.136 (F-2-4)-(3)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 宇津宮 雅史 中條 貴俊
4	歯原性腫瘍 (1) 非上皮性歯原性腫瘍 a) セメント芽細胞腫 b) 骨形成線維腫 (2) 混合性歯原性腫瘍 a) エナメル上皮線維腫 b) 集合性歯牙腫	非歯原性及び混合性歯原性腫瘍の代表的疾患について顕微鏡観察を行い、各腫瘍成分について説明できる。 「口腔病理アトラス」P.205-P.234 「EBMに基づいた口腔病理診断学」P.139-P.146 (F-2-4)-(3)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 大西 綾

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	c) 複雑性歯牙腫		
5	唾液腺病変 1) 炎症性病変 a) 慢性増殖性唾液腺炎 b) 唾石症に伴う唾液腺炎 2) 嚢胞性病変 a) 粘液嚢胞(溢出型) b) 粘液嚢胞(停滞型) c) ガマ腫 3) 腫瘍性病変 (1) 良性腫瘍 a) 多形腺腫 b) Warthin腫瘍 (2) 悪性腫瘍 a) 腺様嚢胞癌 b) 腺房細胞癌 c) 粘表皮癌	唾液腺の炎症性病変、嚢胞性病変及び腫瘍性病変について、その組織学的特徴を学ぶ。 「口腔病理アトラス」P.291-P.332 「EBMに基づいた口腔病理診断学」P.87-P.105 (F-2-4)-(5) ~)	安彦 善裕 佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎 高橋 周平
6) 7	実習試験・清掃 実習再試験	理解度を確認する。	佐藤 惇 吉田 光希 森川 哲郎

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験(100%)

試験は実習試験および定期試験を行う。実習試験および定期試験の得点を同一基準で評価し、両者の平均点により成績を算出する。成績が60点以上の場合を合格とする。なお、定期試験は、筆記試験および歯科医師国家試験形式の多肢選択式問題(単一選択・複数選択)を用いて実施する。実習試験は、歯科医師国家試験形式の多肢選択式問題(単一選択・複数選択)を用いて実施し、課題提出状況、実習出席状況についても評価の対象とする。

【教科書】

「新口腔病理学」第2版 高田 隆、下野 正基 編 医歯薬出版

「口腔病理アトラス」第3版 高木 實 編 文光堂

「スタンダード病理学」下野 正基 編 学建書院

【参考書】

「臨床口腔病理診断学」下野 正基・賀来 亨 監訳 医歯薬出版

「口腔病理カラーアトラス」石川 梧朗 編 医歯薬出版

【備考】

本実習では、バーチャルスライドを用いて病理組織観察を行う。PC、タブレット端末等を用意することが望ましい。

【学修の準備】

事前に講義資料、教科書、アトラスを用いて予習して実習に臨む。(80分)

実習後は、実習書を完成させ復習も行い提出期限までに提出する。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を病理学の観点から修得する(専門的実践能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を病理学の観点から身につける(自己研鑽力)。

【実務経験】

安彦 善裕(歯科医師)、佐藤 惇(歯科医師)、吉田 光希(歯科医師)、森川 哲郎(歯科医師)、清水 重善(歯科医師)、青木 一太(歯科医師)、神野 由貴(歯科医師)、高橋 耕一(歯科医師)、宇津宮 雅史(歯科医師)、中條 貴俊(歯科医師)、大西 綾(歯科医師)、高橋 周平(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

(2026年度・歯学部)

病理専門医および歯科医師としての医療機関での実務経験を活かし、特に歯科治療において実際に経験することの多い疾患について効果的な教育が期待できる。

非常勤講師においても、全員が歯科医師でありまた日常的に歯科医院にて実務を行っている者が多く、歯科治療における口腔病理学的知識の必要性をより実感させることができる。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している